

看護学科 専門教育科目 概要（令和5年度第1・2学年適用）

	科目名	概要
3年前期	看護倫理	変化し続ける社会環境の中で看護師の倫理的役割をディスカッションし、看護における倫理的課題と専門職としての個人の責務を理解できることを目的としている。
	在宅看護学演習Ⅱ	在宅療養者とその家族を単位とした継続看護マネジメントの基本的な考え方・方法を学ぶ。事例を基に、療養者と家族の健康と生活に関する意思決定を支援する看護の役割、病院と生活の場とを移動する療養者の入院支援・退院調整、在宅療養の場における看護を体験的に学ぶ。
	クリティカルケア論	成人病態と臨床実践の学びを発展させ、救命救急センターやICUなどに入室している生命危機状態にある患者や家族への援助を学ぶ。また、重症患者の特徴的病態や症状、災害発生時の初期医療対応や急変時対応の基本について学ぶ。
	成人看護学演習Ⅰ	周手術期患者の全身状態を理解し、看護援助を考えるためのフィジカルアセスメントについて実践を通して学ぶ。さらに、回復に向けた具体的な援助方法をロールプレイングやシミュレーションを通して実践的に学ぶ。
	成人看護学演習Ⅱ	慢性的な健康問題をもつ成人期の患者と家族の療養支援について、セルフケアの維持・促進を目指した看護過程の考え方を基盤としてその必要性を導くとともに、セルフマネジメント支援や看護について演習を通して実践的に学ぶ。
	老年看護学演習	老年看護学演習は、「老年看護学」「老年病態論」で学んだ知識をふまえ、事例を使った看護過程の展開や技術演習、ディスカッションを積み重ねながら、高齢者の生活に必要なケアの考え方や支援方法を学ぶ。
	小児看護学演習	子どもの成長発達および特徴的な疾患の理解に基づき、疾患や治療によって起こる子どもと家族の心身および社会的影響を明らかにする。疾患を有した子どもとその家族に看護援助を提供するための基本的視点を学ぶ科目である。
	母性看護学演習	母性看護学演習は、2年次の母性看護学や母性病態論で学んだ知識を活用し、周産期母子事例の看護展開と母性看護実践に必要な実践的能力を身につけるために学ぶ。この学びは、母性看護学実習で対象者のニーズに対して、適切な判断と解決できる実践的能力のための専門的な基礎知識、および技術である。
	精神看護学演習	本科目は、精神障害のある人々の生活を支えるために必要な看護実践の展開方法を学ぶことを目的とする。多様化する社会や家族に目を向け、精神看護が目指す役割、機能について学ぶ。また、精神障害のある人の語りを聞くことや相互交流の機会をもつことで対象理解を深め、実際に地域生活を営む彼らを支える制度や社会資源の活用、支援のあり方について考える。
	看護実践統合演習	3年次の臨地実習に必要な基礎的看護実践能力の修得を目指し、ロールプレイングを取り入れたグループ学習によって、対象者の状況に応じた看護技術を実践的に学ぶ。基礎的看護実践能力の習得に関しては、OSCE (Objective Structured Clinical Examination：模擬患者参加による客観的臨床能力試験) によって評価を受け、自己の課題を明らかにする。
3年後期	健康回復支援実習Ⅰ	対象者のセルフケア能力の維持・促進、および自己決定を支える看護を実践的に学ぶ。学生は病院施設において主に成人期の患者を受け持ち、看護過程を活用した援助の考え方を基盤として、主体的に看護実践を行う。
	健康生活支援実習（老年期）	高齢者に対する看護実践を通して、加齢や疾病が生活機能におよぼす影響を理解し、高齢者の自立的な生活を支援する看護の視点と方法、家族支援、多職種協働の重要性を学ぶ。
	健康生活支援実習（こどもと家族）	小児科病棟、障がい児（者）関連施設、小児科外来で実習することにより、様々な健康レベルのこどもとその家族に対する援助を体験し、多職種連携の実践と小児看護の役割を考える。
	健康生活支援実習（母子と家族）	妊娠期・分娩期・産褥期および新生児期から乳幼児期にある対象者とその家族の特性を理解し、対象者の状態に応じた看護活動を学ぶ。
	健康生活支援実習（精神）	精神に障害をもつ人々について、「生活」の観点から理解し、彼らに必要な看護活動を考え、多職種との協働ができる基礎的能力を養うことを目的とする。精神科の病棟において1名の入院患者を受け持ち必要な看護の方向性を導き出す。また、地域生活を営む人々とコミュニケーションを図り、精神障害からの回復（リカバリー）について考える。
	卒業研究Ⅰ	研究の基礎知識および研究倫理について学んだ上で、文献検索法と文献検討の方法、研究課題の明確化と研究課題に応じた研究方法論の選び方、研究計画書と論文の作成方法、研究論文の公表の意義と効果的な発表方法について学ぶ。
3年後期～4年前期	地域包括ケア実習	実習Ⅰ：訪問看護事業所での実習 地域で生活する療養者とその家族の特徴とニーズを理解し、生活の質の維持向上を目指した在宅看護を提供するための基礎を養う。 実習Ⅱ：医療機関の地域連携部門・入退院支援部門での実習 病気が障がいをきっかけに生活の場を移動する療養者とその家族の特徴とニーズを理解し、生活の質の維持向上及びチームケアに必要な継続看護マネジメントを実践する基礎を養う。

看護学科 専門教育科目 概要（令和5年度第1・2学年適用）

	科目名	概要
4年前期	健康回復支援実習Ⅱ	実践的な実習体験をするために、看護チームの一員として複数の患者を受け持ち、疾患の治療や退院後の生活支援のために必要な看護の調整役割ならびにチーム医療について実践的に学ぶ。
	看護管理論	看護管理論では、医療・看護をとりまく環境をふまえ、社会のニーズに対応した質の高い看護の提供のために、看護実践があるところすべてにおいて必要であるマネジメントの諸機能について学ぶ。これらを通して、看護職に求められる役割と責務について探究する。
	皮膚・排泄ケア	人工肛門、人工膀胱の造設や褥瘡などの創傷及び失禁に伴って生じる問題をアセスメントしてケアするための知識・技術を学習する。
4年後期	多文化看護論	グローバルな視野に基づき、日本国内外において、看護師として異なる文化的背景を持つ人々に対して、文化を考慮した看護の提供ができるようになるための知識・技術・態度について学ぶ。
	公衆衛生学Ⅱ	我が国の高齢者保健・疾病障害統計・精神保健・食品保健・環境保健・産業保健に関し、公衆衛生的・疫学的視点から説明できるようになることを目標とする。また保健統計に関し、計算法を含んだ知識を習得する。保健統計で使われる諸手法について、説明できること、データを使用した基本的な統計解析ができることを目指す。
	セーフティマネジメント論	セーフティマネジメントは、安全で良質な医療を提供するために必要不可欠である。本講義では、医療提供場面におけるセーフティマネジメントについて、医療安全、感染管理、災害看護、の側面から学修する。
	人々の暮らしを支援する実習	人々の望む暮らしの継続とQOLの維持・向上を目指し、環境や人々のニーズに応じた具体的な看護実践を学ぶ。また、地域包括ケアシステムにおける多機関・多職種との連携の在り方や看護の役割を実践的に学ぶ。
	看護総合講義	看護学の集大成の科目である。これまでの学修を振り返り、自己の学修成果の確認のために、看護学に関する基礎および専門分野を総合的に学修する。
4年通年	卒業研究Ⅱ	卒業研究Ⅰでの学びを基盤として、研究する上で不可欠な文献クリティークの方法を学ぶ。そのうえで、既習の諸学を通して得た知識を活用しながら看護実践を研究的視点で捉え、研究テーマに発展させる力を養うために、研究計画書の作成までの過程を学ぶ。